NEW WAVE, A SENSE OF LIFE
KOIZUMI

KOIZUMI INTERNATIONAL LIGHTING DESIGN COMPETITION

for students Entries

第3回コイズミ国際学生照明デザインコンペ作品集

KOIZUMI ILDC for STUDENTS

C O N T E N T S

ごあいさつ「あかりのありか」 3
Greeting "The Way of light"

第3回コイズミ国際学生照明デザインコンペ審査を終えて 4

栄久庵憲司 粟津潔/Kenji Ekuan Kiyoshi Awazu

審査委員講評/Juror's Comments

菊竹清訓 12
Kiyonori Kikutake

ジョナサン・デ・パス 13
Jonathan De Pas

入選作品/Entry

金賞/Gold Award

Jorma Tapani Noponen 14

銀賞/Silver Award

名越佳子 Keiko Nagoshi 16

夏目　繁 Shigeru Natsume 17

銅賞/Bronze Award

広瀬裕介 Yusuke Hirose 18

Juha Pekka Jokinen 19

岡﨑いづみ Izumi Okazaki 20

鹿島　肇 Hajime Kashima 21

小林京和 Keiwa Kobayashi 22

特別賞/Special Award

宮竹伸一 Shinichi Miyatake 23

佳作/Honorable Mention 23

高校生の部/High School Section 26

選外佳作・第3回結果と概要 27
Unselected Entries・Application Procedures

参加学校名/Participant's Schools 28

注）プロフィールは全て1989年11月現在、応募時点のものです。
The infomation in these profiles was all current as of the time of application to the Competition (November 1989)

あかりのありか

私共の主催する、コイズミ国際学生照明デザインコンペも、今回で早や3回を数えることとなりました。お蔭様で多くの反響を呼び、国際的な規模を持つコンペとして定着してまいりました。その成果に驚きと、喜び、そして感謝の気持ちを新たにしています。若者のあかりの文化への探求心、そこに現われためぐる想い。それをともに育み確めあう照明文化研究こそが「あかりのかたち」を生みだす基盤となる事でしょう。

光源の物理、製品化技術は最近とみに高度な発展をとげています。しかし、トータルな空間、環境設計、さらに文化の学としての照明学は、まだまだ未踏の分野です。あかりは直接に感情に訴える力を持っています。日常と非日常の舞台転換や、人々の誘導をし、活動をスムーズにし、安全をかなえ、街に活力を与え、個性や気品を演出する。それらすべてはあかりの力です。それらの正しいありかたを見つめていく研究はこれからの大きな課題であると共に、こころの探求でもあります。

コイズミは、コンペによってあらわにされた創造へのエネルギーをより効果的なものとすべく、専門家を結集してその実現を支援する一方、照明文化研究の振興につとめていく所存です。皆様のご賛同と、ご協力を願ってやみません。

小泉産業株式会社代表取締役社長 **小泉 純**

The Way of Light

The KOIZUMI INTERNATIONAL LIGHTING DESIGN COMPETITION FOR STUDENTS sponsored by us has now come to reach its third anniversary this year. Thanks to all efforts of those concerned,it has been able to set firm grounds as a competition on a global scale. I must say I am greatly amazed,delighted and again grateful to see such bright results and prospects. The questful,inquisitive spirit of our youths toward lighting culture,and moreover the myriad of emotions revealed in its connection. Studies and research made on such lighting culture that allow our youths to mutually nurture and ascertain each other shall truly serve as a foundational basis for creating new "forms of light."

Recently we have been witnessing the sudden and rapid emergence of highly advanced developments of illumination physics and manufacturing technologies. Nevertheless,the studies of illumination in comnection with the creation of space in totality,the designimg of the surrounding environment and still more the cultural aspects,we must admit,are unfortunately fields yet to be explored.Light has the power and capability to change and produce various things;changing our everyday scenes in life to something quite strange and unusual,guiding and inducing our people,providing us with safety, giving the cities and streets life and vigorous energy,expressing individual and refined character and quality,and so on.Studying and searching the proper ways of such lighting culture shall be our greatest task as well as our pursuit of heart and soul in the future.

On behalf of KOIZUMI,let me express our desires to cotinue to support the joined forces of professional expertise on the one hand,as well as promote research and studies of lighting culture on the other,all in an aim towards making that creative energy revealed through our competition bring on more fruitful effective results in our lives. We sincerely hope to have your kind.
and unfailing support and cooperation. Thank you.

President, Koizumi Sangyo Corp. **Jun Koizumi**

選評座談会

第3回コイズミ国際学生照明デザインコンペ審査を終えて

出席者
栄久庵憲司 審査委員長
粟津 潔 審査委員
小泉産業㈱

小泉　長時間にわたる審査ありがとうございました。今回の結果について、また今までの傾向を振り返って、先生がたのご意見をお伺いしたいと思います。

粟津　国際コンペが一般的に非常に建築を含めて盛んになってきた。これはたいへん良い傾向だと思います。このコンペも4年になりますが、毎年少しずつ変化してきて、コンペの応募のしかたも洗練されてきたという感じがします。

栄久庵　コンペは基本的には競争社会の原理ですね。競争があらゆるものを良くしていく。競争原理のない国ではデザインオフィスの成長もないですね。

粟津　やはり自分が人と違うんだという意識ですね。そういう個別性があるかないかっていうことがとても大事だと思います。

栄久庵　競争の原理というのはちょっと残酷なところがあるけどね。そういう意味ではコンペというのは民主的であると同時にクリエイティビィを発揮させる…。それは個にとって誇りと名誉を感じさせるわけです。フェアということですね。

粟津　デザインというものをやって来て、自分の制作した成果が何らかの形で評価されるということを頼りにしながら次へ進むわけですから。どんな良い仕事をしても反応がないっていうのは寂しいですよね。そういう意味でコンペティションというのは若い人のために大きく貢献してきていると思います。コンペ自体はけっこう昔からあって、日本でも仏師がそうですよね。三十三間堂でも、わずか2年ぐらいで作っている。あれもコンペですね。建物や仏象を作るのに何人も名工がいるわけですよね。それに工費と工期と中身をプランニングさせて、この人に頼もうというようなことが古くから行われていた。コンペは世界の文化の中でも色々あったでしょう。

栄久庵　基本的にはコンペというのは価値の創造でしょう。それが一番面白いわけです。

粟津　どういう価値がこの世の中にはあるか。そしてそれがどう変化するか。人類学的にいうと価値の世界ということですね。

栄久庵　今回の話で言うと、あの金賞の木の作品は、確かにエコロジーなんだけれども、応募作品の中でそういう言葉がでるようになったっていうのは地球の時代をみんなが意識しているということだと思うんです。つまり、そういう環境が失われているということなんですよ。木は限られた資源だし、プラスチックや金属のようにはいじれない。一方、光というのは、もとのエネルギーへの再生がきかない。光はエコロジカルな意識が段々強くなっているなか、光の扱い方はよほど注意しないといけない。光に照らされている方ではなくて光を出している方が問題なんだ。出している方にそれなりのフィロソフィーがなければいけない。照らす光の意味をしっかりおさえておかないと。あまり照らしてばかりいると、日本民族は少々お金ができて下品になってきた、という意見もあるわけですよ。

小泉　それはそう思いますね。あまりにも商業ベースになりすぎている。もう少し周囲の環境との調和などを考えなければいけないと思います。

粟津　ともかく光というものについて議論するようになったのはとても良いことだと思いますね。光を議論するにはそれぞれ原点があると思うんですが、ハイテクの光も、ローテクの光も、たいまつの火も、我々の若い頃のように戦後の貧しい時代の光もあったし、今輝く光のもとに生きている人間もいるし、光って言うのはそれぞれ心を持っているわけ。心の発言でもあるわけですよね。だからやはりこのコンペは光のそういう要素を重要視しないといけない。2回

目にもホタルの光からヒントを得てっていうのがありましたが、いろんな光のフィロソフィーがあるわけです。

栄久庵　それは言うなれば厚化粧にならないようにですね。

粟津　そうそう。最近、ファッションの方もエコロジカルですね。今年から来年にかけてものすごくそういうものが多い、木の模様、葉っぱの形、染めも自然の色を使ってやるとか、逆方向に向かい始めた。そこがたいへん面白いと思う。今回、グランプリを受賞した作品も、いろいろ議論しましたが非常にいい作品でしたよね。それから高岡という木彫りの土地から木の作品の優秀な作品が登場したというのが興味深い。やはり自然の流れかなと思いますね。今まで木は照明器具の素材としては、ある一部分にしか使われないものだったですよね。アンヒューマンな形の照明器県が多かったでしょう。やっと素材感として木を使う作品が出てきた。ファッションの方でも最近は素材の研究がたいへん進んでますよね。三宅一生さんは素材で登場してきた。エスニック素材といって色々な未開発地域の素材や伝統的な古い素材を見つけ出したりしてね。日本の古来の素材を発見しながらその考えで、アジアとかアフリカとかの素材を見つけてきたわけですよね。だから形だけではないわけです。形を支えている素材なわけです。今回のグランプリの作品も、そういうことがおそらく自然に国柄として、フィンランドの持っているアイデンティティが非常にシンプルに出たような気がする。これ以上本当に無駄がないし、大きさもちょうどいいし、プロポーションも素晴らしい、木の扱いにも無茶がないし、木の素直さをそのまま生かしている。照明が消えているときでもなかなか良いですね。トーテムと作者が言っているように、インディオの時代のプリミティヴな形ですよね。スリットもくさびみたいな感じだし、世の中にはじめて形を発見した原住民が作るような単純なフォルムですね。

栄久庵　ちょっと詩的な表現になるけど、木が光を求めている。光が木を求めているんではなく。それはレンブラントが光を発見したように人が光を求めているんだ。

粟津　もともと光ってのは神秘性があるんですね。今は都会で光を見ても神秘性なんて何も感じられないけど、やっぱりオーロラなんか見てると、光は本当に神秘だと思う。光の美しさを演出できるということがこれからの光の扱い方だと思いますね。それぞれ民族の心を吹き込むということかな。

栄久庵　光をどう理解しているかでしょうね。そこを間違えてしまうと、日本がまた変なことをしてしまう可能性もあると思う。

粟津　銅賞の小さいメッシュの作品は繊細な光の演出ですよね。今思うと僕が欲しいと思うのはあれですね。

栄久庵　いつも思うんですが、フィンランドの人にしてもあれは我々を試しているんじゃないかと…。われわれが謙虚な審査員かどうかをね。(笑)

小泉　我々も海外の作品が金賞を取ったということで、それが次からある部分ものすごく刺激になるのではと思っています。去年の「月に寄せて」といえ作品も良かったんですが、基本的に日本の学生と外国の学生は考えていることがちょっと違うなという気がしますね。

粟津　我々も国際コンペをいろいろやってますが、日本人の光に対する概念とヨーロッパの人達の概念と、アジアの人達の概念はおそらく違うと思いますね。光に対する思い入れや考えはたくさんあるわけです。光って言うのは永遠の時間と同じだからね。

小泉　この3回のコンペを通じて応募者の光に対する思い入れというものは感じられますか？

粟津　3回目にしてやっと感じて来ました。パンフレットを見て応募してくる以前の、光に対する考え方ね。そういう意味では銅賞のさっき言っていた作品なんかは良いですね。あれは光をしぼると雨のような霧のような光ができる。細目雪のような光だな。非常にロマンチックですね。

栄久庵憲司
インダストリアル・デザイナー

1929年東京生まれ。
1955年東京芸術大学図案科卒業。
1957年GKインダストリアルデザイン研究所を設立、所長となり現在に至る。
著書として「インダストリアルデザイン」(日本放送出版協会)「幕の内弁当の美学」(ごま書房)「道具考」(鹿島出版会)等がある。

栄久庵　光が形を当てるというか、光が形を作る…。

粟津　要するにデザインというのは結局シチュエーションなんですね。人間が生きている場面の演出家。私は、デザイナーとは場面を作る人間であるというふうに規定しようと思っているんです。そして光こそシチュエーション演出の中心にいるんじゃないかと思う。闇だと何も見えないわけだから。見え方を作って行くわけですね。その見え方を作る一方、光がない時でもオブジェとしての良さがないといけない。

栄久庵　木は光でつくられた材料だよね。太陽に作られた木がまた光を求めていくという…。今までにないものがありますね。プラスチックや金属だとそれがとらえる光は一種の消費材になっていくわけだ。そういう意味で、金属は年を取らないから光も年を取らない。木だと光も年を取っていく。一種のエコロジーですね。

粟津　疎開していた時の話なんだけど、昔の農家は家の中が暗いで

しょう。でも朝になって戸の隙間がスリットになってそこから朝の光がピーッと入ってくる。これは美しかったね。戸板の穴やなんかからも光が漏れる。林で言えば木漏れ日ですね。光をベターッと当てるんじゃなく、闇の中に地上の光が差し込んで来るって言うのはレンブラントじゃないけど、永遠の光の美しさっていうか、インターナショナルな美しさですね。そういう意味で金賞の作品のスリットから漏れる光を、我々は選んだんだと思う。それに、銀賞になった高岡の天才少女（笑）、本人はそれほど意識していないと思うけど、あれは巨大な超高層の建物の精度に近い位のディテールを持っている。あれも一種の木漏れ日なんですね。

小泉　ライトアップは外から光を当てますが、あれは中からの光ですね。

粟津　それでかすかに形状が現われる。全体像はみえにくいけれども光が漏れてくるところから全体像が現われてくる。

栄久庵　それが良いんでしょうね。光の力を借りない。去年の「月に寄せて」も良い作品だったが、あれは圧倒的な手の技術でしょう。それにアイディアにも圧倒される。この２つがマッチしていた。今回の銀賞にこの作品は光と木が合って、全体が照明になっているところが良いと思いますね。

粟津　とにかく光は探求しなければなりませんね。コンペの中心は光の探求が主題だね。我々は探求の仕方を審査するという感じですね。

栄久庵　地球の時代になってきたから、限られているということが共にあるという感じなんでしょうね。そういう共有感覚が大事なんですね。そこで議事堂なんかを照らし過ぎちゃうと共有感覚がなくなってしまう。民主的じゃなくなるんですね。

粟津　だいたい日本人の光観っていうのは、俳句みたいな感覚があると思います。

栄久庵　そうですね。ある品位、風格を保つということがこれから大事でしょうね。下品にならないようにね。

粟津　もう１つの銀賞の音の出る作品、あの作品には風流がありますね。これからの照明器具には日本人の持つ風流な魂が必要ですね。

栄久庵　あの作品は光というテーマでトータリティーを求めているんですね。環境のトータリティーを光が求めているという。そういう面からみると、光はそのトータリティーの求め方が強いね。光を一つ置くとあらゆるものが集まってくる。

粟津　風流を若い人が意識しているかどうかはわからないけれども、あれは伝統的なフォルムなんですよ。風を利用して造形をつくりだすという…。光というものに風流を与えたわけです、それも一つの評価の対象ですね。

栄久庵　見えないものを形にしていくっていうのが風流の基本ですね。見えるものから見えないものを探していく、つまり風という見えないものを風鈴という形にする…。自然の意味を人の知恵を使って探して行くっていうのが芸術なんですよね。その一方で、メフィストフェレスとファウストじゃないけど、あしげにする、無茶苦茶にするっていうのもあるんですよね。悪魔が光を使ったらどうなるか、という。なぜそういう事を言うかというと、一方では警告ですよ、乱暴の極致をして光の新体験を探させる。勇気を奮って闇を探

粟津 潔
グラフィック・デザイナー

1929年東京生まれ。
粟津潔デザイン研究所主宰。
日本宣伝美術会賞、伊藤憲朔賞、第３回「ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ」で銀賞および特別賞、日本アカデミー賞等を受賞。
1990年春、「紫綬褒章」受章
主な仕事として出雲大社庁舎の鉄のトビラや映画「田園に死す」の美術等がある。

求する。風流やエコロジカルなものの意味を高めようとするならば、一方で、非風流というものもつくらないといけない。アンチテーゼとしてね。ライトアップっていうのはある意味ではアンチテーゼなんですよ。風流じゃない。でも、そういう意味では揺さぶりがあってもいいわけです。メフィストフェレスの心を若者からはずすのはまずいと思うわけですよ。

粟津　俗また真なり、だね。世俗の中の光も見ないといけない。肉食妻帯勝手たるべし、と言わないと親鸞の心はわからない。

栄久庵　そこをそうじゃないと言ってしまうと、まずい。アウフヘーベンしないと。コンペを中心に言うならば、決めてかかってはいけない。ここが難しいんだけども…。冒険ですね。

小泉　そういう意味では私共のコンペがあまり制約を多くしたり、目的を指示したりしないほうが、良いということでしょうね。フリーな方が光というものに対する思い入れが出やすいかもしれませんね。

栄久庵　ここで自由という意味を良く考えなければいけない。ここが大事なんですよ。

粟津　自由というのは見離されたという意味もあるんだな。それは全く誰の助けもないという事でもありますね。しかし、冒険の中心は自由なんだ。そして自由は個人の中にある。

栄久庵　徹底的な冒険は非自由を発見する。非自由をつきとめると自由が見えるという。限られている地球資源という不自由さが、その中でいかに自由を求めるかという方向になっていく。

粟津　あとは選択ですよ。何を選択するか。

栄久庵　限りあるとか、光は再生産がきかないという不自由さ、だからその中で自由を求めると言うことを考えたときに創造性が出てくる。本質が見えてくるんですね。それがやっと出て来たと思います。何でも自由にやっていくと公害みたいになっていく。やっと不自由を発見したんだな。価値を創造していく自由とはどういうことか。そしてさらに自由を理解するためにこのコンペがあるということでしょうね。

小泉　このコンペも3回目ですが、続けることは偉大な力だと思いますね。

栄久庵　継続は力なりですよ。レベルも上がってきたしね。良い結果でしたよ。話題もたくさんあったし、とても楽しかった。

小泉　本日はどうもありがとうございました。

SYMPOSIUM

On Completing the Selections for the Third KOIZUMI International Lighting Design Competition

Participanting Members.

Kenji Ekuan Head Juror

Kiyoshi Awazu Jury Panel

KOIZUMI SANGYO CORP.

Koizumi Thank you very much for acting as our judges,spending so much of your precious time in the selections.We would like to hear your views as to the results of this year as well as the previous trends upon reflection.

Awazu International Competitions including those for architecture have generally become very popular and widespread.I think this is a very positive trend.It's four years now since we've started this competition,and it seems gradually changing every year,with applicants sending in more and more refined works.

Ekuan Competitions are basically the fundamental principle of a competitive society,right? Competition helps to make various things better and improved.We don't find any developments in the design offices in countries where there is no competitive principle.

Awazu Perhaps it's the consciousness of oneself being different and unique from others.The presence of such individual character is I think a very important factor.

Ekuan I think the competitive principle is sometimes a little hard and merciless on us.In that sense a competition halps exhibit and manifest our creativity at the same time that it is also democratic…For the individual it offers pride and honor.So it offers a fair chance.

Awazu A person who's been involved with designing proceeds on to the next step,with his/her sole trust and cofidence in having his/her own work being evaluated and appreciated in some way upon its completion.It would be really sad and depressing if there's no reaction for whatever fine work you manage to produce.In that sense I think the competition has been cotributing greatly towards our hopeful youths.As for competitions themselves, we've had quite a few since very olden times.For instance,the sculptors of Buddhist images.Even the"Sanjusangendo"(A Tendai Buddhist temple in Kyoto built in 1164 under Imperial Orders for His Worship)was costructed in only 2 years or so.That was a kind of competition too,right? There were a number of master artisans involved in the costruction of architecture and Buddhist images,weren't there? And planning as to the costs,term and substance as well as who to entrust the job had been done since olden times.Perhaps there had been a variety of different competitions in the cultures and civilizations all over the world.

Ekuan Basically speaking,a competition involves the creation of values,I think.That is the most interesting part of it.

Awazu What kind of values do we have in this world? And how will they change? It is a world of values from the anthropological perspective,right?

Ekuan Talking about this year's competition,that Gold Award-winning work made of wood is definitely one of ecology.The thing that I think is worthy of note is that such an expression should come up in our enrties.It shows how much everyone is becoming more and more aware of an Earth era.In other words, such environmental factors are being lost today.We can't tamper so much with wood as much as we do with plastic and metals because it's a limited resource.On the other hand,light can't be regenerated back to its source as well.The stronger our ecological awareness becomes,the more care and attention we must pay towards the handling of light.The problem lies not in the ones that are illumined by the light but in those that are producing and supplying it.Those producing and supplying it must have some kind of philosophy towards light.They must have a firmly estalbished understanding of the meaning of illuminating light.So much illuminations are leading to a number of criticisms that the Japanese race had come to cultivate rather vulgar and unrefined

tastes since they began to accumulate some wealth.
Koizumi I agree with you there.We have become too commercially oriented.I think we should consider more about the harmony with our surrounding environment and so on.
Awazu At any rate,I think what's most creditable is that we've begun to discuss and argue about light.Perhaps light in its various aspects has its own point of origin in beginning any sort of argumentation.However,each kind of light-whether a high-tech light,a low-tech light,torchlight,lights which shone upon us in our youths during post-war poverty,and people living under the lights which shine upon us today-has a soul within.They are also an utterance of that soul as well.That's why this competition must definitely place its emphasis on such elements of light.In our Second Competition,just as we found a work which had been created from a hint of the light of a firefly,light costitutes a number of different philosophies.
Ekuan In other words,that's so that it doesn't get too gaudy and heavily made-up,right?
Awazu That's exactly what I mean.Recently our fashions seem ecological too.Most of the fashion we see this year and into the following year follow that trend.We are beginning to move in an oppesite direction such as the use of woody designs,leaf designs, the use of natural color dyes,ets.That I think is a very interesting point to mention.Though there was great dispute as to the work which won Grand Prize this year,I think it was nevertheless extremely well-made.
I was also greatly impessed to find outstanding works of wood sent in from Takaoka,a place famous for its wood carving crafts. I was reconfirmed of the present currents toward nature.Up until now wood had only been used partially as materials for lighting devices,don't you think? There were so many "unhuman"lighting devices.And now finally wood in being used as proper material. A lot of study on materials is being in progress even in the world of fashion.Mr.Issei Miyake had discovered and presented old and traditionnal materials called"ethnic materials"found in a number of different undeveloped reginos untouched by modern civilization.Discovering materials of ancient Japan,he was able to find out materials in Asia and Africa under the same idea and principles.That's why it's not just the form we are concerned about. What we are concerned about is the material which supports our forms.Similarly in the grand prize-winning work as well,such an identity of Finland had very simply and naturally manifested itself as a national character,I presume.There's nothing more to say about the worp than that nothing has been wasted,the size is just right,the proportion is wonderful,much thought and care is given as to the handlig of the wood and what is more the planness of the wood itself has been kept just as it is.It looks quite nice even with the lights out.Just as the author calls it"TOTEM."the work seems to have a primitive form of the ages of the Indians. With the slits resembling wedges,the work is of a simple from as though made by local aborigines who were the first to biscover forms in the world.
Ekuan Let me give a slightly poetical expression—the wood is seeking light.Not the light seeking wood.Just as Rembrandt discovered light,people are seeking light as well.
Awazu I guess light had possessed some sort of mysterious charecter from the first place.I can't feel anything mysterious when I see light in the cities today,but when I do see an aurora, I definitely believe in the mysteries of light.I think the future treatment of light lies in the dramatic presentation of its beauties.Perhaps this means breathing in the souls of each ethnic character,I guess.
Ekuan Perhaps the main thing is how you interpret light.If we make some mistake there,Japan may possibly do something odd and strange again.
Awazu The Bronze Award-winning small work of mesh designs was a delicate dramatic representation of light,wasn't it? Come to think of it now,that's the work I really wanted for myself.
Ekuan I always think that we're being tested by those people like the one from Finland,you know…Whether we're modest judges or not.(laughs)
Koizumi We believe that by seeing a foreign work winning the Gold Award,it will serve as a tremendous impetus for the Japanese to some extent in future competitions.Last year's "Tribute to the Moon"was a really fine work,but the ways of thinking of Japanese and foreign students seem fundamentally different.
Awazu We've been dealing with a number of different international competitions,but the concept of light seems to biffer among Europeans,Asians and Japanese.That is,there are many many kinds of feelings and emotions people foster toward light. Light is very similar to everlasting time,you know.
Koizumi Through the past three competitions,could you perceive the applicants' feelings toward light?
Awazu I finally was able to do so after the third this year.You

KENJI EKUAN

Industrial Designer

Industrial designer born in Tokyo, Japan, in 1929. Graduated from the Tokyo National University of Fine Arts and Music, Design Course. in 1955. Established GK Industrial Design Associates in 1957. Presently serves as president of same. Published works include "Industrial Design" (Nihon Hoso Shuppan Association), "MAKUNOUCHI BENTO NO BIGAKU (GOMAShobo), and "DOGUKO" (Tool Concept) (Kashima Publishing Co.,).

know,their feelings toward light even before they send in their works when they're looking through the pamphlets.In that sense, I really think the Bronze Award-winning work I just mentioned a while ago is outstanding.When we narrow its light,the light comes out like rain or mist.Light like light snowfall,you know.It's extremely romantic.
Ekuan The light takes some kind of form,or rather the light creates form.
Awazu In short,a design is a situation after all.A producer of situations in which human beings live.I wish to define a designer as a person who creates scenes and situations.And I believe light is indeed the center of such situation producing and creating. Because in darkness we won't be able to see anything.They are trying to make way for us to see.But os the other hand,the work has to have some value as simply an object of decor even when the light is out.
Ekuan Wood is a material made from light,isn't it? Wood which had been made by sunlight in turn seeks light again.We can sense something which we never had before.With plastic or metal,the light it emits becomes some sort of expendable item.In that sense, metal doesn't age so the light doesn't either.But with wood,the light ages as well.So it's sort of an ecology.
Awazu Let me tell you about my experience while I was

evacuating during the war.It's real dark inside a farmhouse of olden days,you know.But in the morning,light comes in as a sharp ray through the slits between the narrow openings in the doorways.Now this was really beautiful.Light even comes in through the chinks in the doors and shutters too.Just like the sunshine filtering through foliage in the woods.The earthly light streaming in through the darkness,rather than that light which heavily clings above us,is,as Rembrandt also put it,the everlasting beauty or rather the international beauty of light.Perhaps that's why we chose the light streaming through the slits of the Gold Award-winning work in that perspective.And that talented young lady from Takaoka(laughs),perhaps she ins't that aware of it herself, but her work possesses the details almost as precise as those of a gigantic skyscraper.That's probably a kind of light filtering through foliage too in a sense.

Koizumi When lighting up,it's done from outside,but that work consists of light coming out from within,right?

Awazu And the shape and form appears faintly.It's hard to see the overall image,but it appears from where the light filters through.

KIYOSHI AWAZU

Graphic Designer

Born in Tokyo, Japan, in 1929. Chairman of Awazu Kiyoshi Design Research Center. Recipient of Japan Advertising Art Award, Ito Kisaku Award, Silver Award and Special Award from the 3rd Warsaw International Poster Viennale, and Japan Academy Award. Principal works include the iron door for the admnistrative offices of Izumo Shrine and artwork for the movie "Dying in Fields."
He Received The Medal with Purple Ribbon, in Spring, 1990.

Ekuan That's where the beauty comes from.It doesn't owe its strength to the light.Last years "Tribute to the Moon"was really outstanding too.That was a work of remarkable skill and dexterity.I was also impressed by notion.These two factors were well matched.This Silver Award-winning work of this year was outstanding in its harmony of light and wood in such a way so that the overall piece produced illumination.

Awazu Anyway,light is something we must continue to pursue. I think the major core and theme of the competition should be the pursuit of light.And what we as judges are doing seems to be to judge the different ways of this pursuit.

Ekuan Since we've entered an earth(terrestrial) era,it seems everyone mutually shares a sensation that everything is limited. Such feelings of sharing is what's important.And then if we illuminate something like the Diet building in excess,there isn't anymore of that sense of mutual sharing.It's not democratic anymore.

Awazu In general,I think the Japanese views toward light are some sort of sensations in relation to Haiku.

Ekuan I think so too.Perhaps the most important thing from now on will be to maintain a certain degree of dignity and style. So as not to become vulgar and unrefined.

Awazu You know,that other Silver Award-winning work which produces sounds,that work has some aesthetic taste and elegance.I really believe lighting devices in the future needs that aesthetic taste and elegance peculiar to the Japanese.

Ekuan That work seems to be pursuing totality under the theme of light.That the light is pursuing a totality of the environmet. Viewing from that perspective,light is a strong,powerful tool in pursuing that totality.Placing a single light in one area causes so many other various objects to gather about it.

Awazu I'm not really sure whether the younger people are aware of this aesthetic taste and elegance,but that form is a traditional one at any rate.That is,creating forms and shapes making use of the winds.They have given refined taste and elegance to light.That could be considered one of our objects of evaluation.

Ekuan The fundamental idea for that refined and aesthetic taste and elegance is to create form from something invisible. Seeking something invisible by means of something visible,that is,letting the invisible winds take on the form of a"furin"(wind-bell)…Art is that pursuit of the meaning and significance of Nature using human wisdom and intelligence.On the other hand, there is also that art in which it is trampled upon or made into nonsense such as Mephistopheles or Faust. Like what would happen if the devil used light.The reason I say this is on the one hand as a warning to encourage that pursuit of a new experience of light through carrying out total violence and disorder.Like pursuing through the darkness,taking up as much courage as possible.If we desire to enhance the meaning and significance of refined and aesthetic taste and elegance as well as the ecological matters,we must also create something of the contrary substance

as well.As an antithesis,you know.Lighting up is in a sense an antithesis,you know,Not a refined and aesthetic taste and elegance.But this all the more allows possible harassments and confusion.I don't consider it unwise to diverge the spirit of Mephistopheles away from our youths at all.

Awazu So,vulgarity is also the reality,right? We must be sure to look at the light in our secular,mundane world too,you know. Unless we are satisfied in our own way about flesheating and matrimony,we won't be able to understand the spirit of Shinran Founding(Father of the Jodo-Shinshu Sect of Buddhism).

Ekuan It would be unwise and most awkward if we were to say that's not so.That's where we'll have to sublate.Taking the competition as a major concern,we must not impose our own decisions and judgments upon the entries.Well,this is where we find the greatest difficulty,though··· It's a real challenge.

Koizumi In that sense maybe it would be better if we don't establish so many restrictions or clearly point out our purposes too much for our competitions,right? Perhaps feeling and sensations toward light would come out more easily if there is more freedom,right?

Ekuan We must pay our special attention to freedom here for the moment.This is the most important point.

Awazu Freedom has also the meaning of being abandoned or isolated too,you know.And that also means we don't get anyone's help at all.However,the central core of challenge and adventure is freedom.And that freedom is within the individual.

Ekuan Complete and absolute challenge and adventure allows us to discover anti-freedom.If we continue to pursue anti-freedom,we can find freedom.Living in destitution and inconveniences of our limited resources helps direct us toward the ways to pursue true freedom.

Awazu The rest is selection.What to select is our main concern there.

Ekuan Thoughts of seeking our true freedom amidst all our inconveniences arising from our limitations as well as the nonregenerability of light help bring about our creativity.We come to see the essence of things.I believe we are finally approaching that phase.If we try to do everything the way we want using all our freedom,it brings about pollution.We have finally figured out our inconveniences.What is real freedom which creates our values?And furthermore this competition exists to help us understand that freedom,I believe.

Koizumi Our competition has been able to celebrate its third anniversary this year,and we truly belive it to be a great achievement and honor to be able to continue.

Ekuan As the saying goes,"continuance makes powerful"right? All our entries are raising their standards and levels every year too.They all made fine achievements.There was a lot of rumor and sensation too.I really enjoyed it a lot.

Koizumi Thank you very much for your time today.

このコンペも回を重ねるたびに、全体として質的にしっかりしてきましたね。第1回の時は遊びの要素が強いという印象がありましたが、今回は仕上げも本格的だし、アマチュアの域を脱していますね。これはコンペの効果が上がってきていることだと思います。

そういう中で、名越さんの「息づく都市」は圧倒的に良かった。一瞬ドキっとしました。とても短大2年生とは思えません。才能を感じますね。この作品を買いたいくらいです。立体都市をモチーフにして光の複雑さや効果を出すというのは、照明としてもとても面白い。これをプロトタイプとして自由にバリエーションを展開してほしいですね。

夏目さんの風鈴の作品は、動く要素と音が組合わさって、こういうものは今回が初めてではないでしょうか。オブジェとして面白いですね。しかし、羽が直線的なのが気になります。もっと有機的な、例えばトンボの羽のような形になればもっと良くなるのではないでしょうか。

鹿島さんの「汀-MIGIWA-」は、非常に簡単なしくみながら、自由に組み合わせを変えて模様を作ったりできるというのが面白いですね。スケールもいろいろ考えられます。それに倒れても危険じゃない。台座はもう少し考えて欲しかったのですが、柔らかい光の効果はとても良いですね。

フィンランドのNoponenさんの「TOTEM」は、寸法がちょうど良い。光の効果ももちろんですが、台座の処理もとても美しいですね。完成度が高く、すぐ発売できるのではないでしょうか。

広瀬さんの「TWIST」は、コントローラーが付けてあり、スタンドとして効果も高く、実用性がありますね。光を絞っていくと、光の小さな点になって表情が良く見えます。既製の台座を使っているようですが、もう少し薄くして曲線を生かすときれいだと思います。第一次審査を見る限りでは海外の作品に金賞が行くのでは、と思いました。日本の学生はもっとプレゼンテーションの手法を勉強すべきです。海外から参加される方も増えてきていますが、イタリーの人にもっと期待したいと思います。

Architect
KIYONORI KIKUTAKE
菊竹清訓
建築家

1928年福岡生まれ。
1950年早稲田大学理工学部建築学科卒業。
現在、早大理工学部客員教授。
1953年菊竹清訓建築設計事務所設立。
第15回日本建築学会賞、第14回芸術選奨文部大臣賞、第7回汎太平洋賞、第8回オーギュスト・ペレー国際建築賞、第21回毎日芸術賞等を受賞。
主な作品に、出雲大社庁の舎、アクアポリス等がある。

Architect born in Fukuoka,Japan,in 1928.Graduated from the school of architecture,department of science and engineering,Waseda University,in 1950. Now a visiting professor of Waseda University.Established Kikutake Kiyonori Architectural Design Office in 1953.Member of Japan Architects Association and Japan Architectural Academy.Recipient of 15th Japan Architectural Academy Award,14th Minister of Education's Award for Artistic Excellence,7th Pan-Pacific Award,8th Auguste Perret Award,and 21st Mainichi Art Award.Principal works include the administrative offices of Izumo Shrine and Aquapolis.

This Competition on the whole seems to substantiate itself all the more in quality as it progresses in the years.I was strongly impressed by the playful element in the first year,but this time we've really gotten out of the bounds of amateurism with the finishings being done so seriously on full-scale. I really believe this proves the effectiveness and impact of the competition.

Among a number of such great works,Ms.Nagoshi's "City with life and vigor" was outstanding.I was breathtaken for a moment.I couldn't believe it was a work by a sophomore junior college student. I felt some kind of talent in this person.To be honest,I would even like to buy this work myself.It was very interesting that this person chose to use the three-dimensional city as a motif to bring out the complexities and effects of light.I really hope this person continues to freely develop other variations using this as a prototype.

The work "Furin(Wind-bell)" by Mr.Natsume is perhaps the first this year in which the elements of motion and sound were combined.It would be an interestig objet.However what bothered me most were the straight lines of the wings.It might have been better if they were more organio like for instance the wings of dragonflies

The work "MIGIWA(Shores)" by Mr.Kashima was interesting in that free variations of designs can be enjoyed by simply rearranging its rather very simple mechanism.A number of different sizes and scales can be considered too.And it's not dangerous even if it falls.There should have been more thought given to the stand,but nevertheless the effect of the soft light produced is very nice.

The work "TOTEM" by Mr.Noponen of Finland is just right in measurement.Needless to say, the lighting effect is great,but the manner in which the stand was treated is really beautiful too.With its high degree of perfection,I am sure it can be put on sale immediately.

Mr.Hirose's "TWIST" turned out to be a very practical piece,highly effective as a stand equipped with a controller.As the light is narrowed,the light becomes a small dot,allowing us to see its expressions better.A ready-made stand seems to have been used,but I think it would have been nicer and prottier if it were made thinner to enhance the curved lines.As far as our primary screening is concerned,I really felt the Gold Award might go to a foreign work.The Japanese students must work harder in learning the skills and techniques in presentation.More and more foreign students are taking part in our competition.I would like to harbor great expectations for the Italians.

作品全体のレベルは、第1回からさほど変わっていないという印象を受けました。銀賞の2点は作品の持つイメージや発想の素晴らしさが際だって表現されています。金賞の作品は現実に商品化することを意図して作られたという印象を強く受けました。できるだけ幅広い観点から審査した結果と言えますが、次回あたりからテーマ別の募集をしていってはどうかと思います。

今回は特にイメージ寄りの作品が目につきました。それに比べ実用的かつシンプルなものは少なかったように思います。またこれは第1次審査の時に驚いたことですが、ホラー的な作品がなぜこんなに多いのか理解に苦しみます。全体的に、アイディア自体はよさそうなのに、表現力の乏しさのためにそれが充分に生かされていないものが多いようです。もっとアイディアを具体的に伝えるための表現力を身につける教育が必要なのではないでしょうか。

世界の学生にコンペそのものの重要性を認識してもらい、より充実したものとなることを望みます。

Architect,Interior Designer

Jonathan De Pas

ジョナサン・デ・パス

建築家・インテリアデザイナー

1932年ミラノ生まれ。
ドナート・ドゥルビーノ、パオロ・ロマッツィ等とともに、1966年ミラノに事務所を設立。
建築設計、インテリアデザイン、工業デザイン等多分野で活躍中。ゴールデンコンパス賞、ビオ・ルビアーナ賞等を受賞。

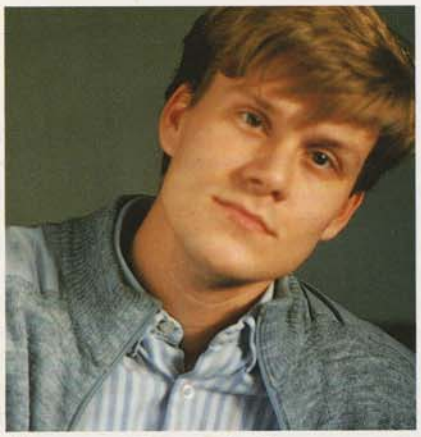
Interior designer born in Milano,Italy,In 1932.Established an office in Milano in 1966 together with Donato D Urbino and Paolo Lomazzi.A central figure in a variety of fields,including architecture,interior design,and industrial design.Recipient of the Golden Compass and Bio Lubijana awards.

I received the impression that the levels of the works on the whole haven't changed much since our first competition.The two silver award-winning works are outstanding in their expressions of their individual image as well as their brilliance in conception.As for the gold award winning work,I received the strong impression that it was made with the intention of actually having it manufactured and merchandised.We could say this as a result of judging from the widest perspective possible.But what I would like to point out is that we had better start to consider receiving entries separately under various different themes,maybe our next competition.

I noticed a particularly large number of image-oriedted works this time.I felt there were a relatively smaller number of simple and practical ones on the other hand.Also what most astounded and bothered me most during the primary screening was the extromely large number of horrorconshious works.On the whole,the ideas themselves seemed fine,but they weren't fully employed due to lack of exressive power.Perhaps there needs to be some sort of training and education in order to acquire such expressive power in which to more specifically and concretely communicate ideas and notions.

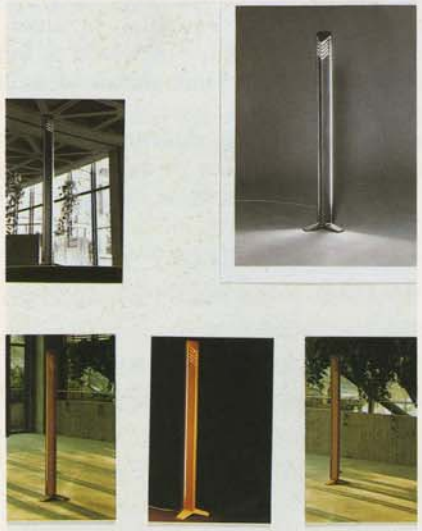
I strongly desire that our students all over the world realize the significance of our competition itself,and that it becomes a more substantial and gratifying one consequently.

金賞 Gold Award



Jorma Tapani Noponen
ヨルマ・タパニ・ノポネン

1963年フィンランド生まれ。
LAHTIデザイン大学デザイン部金工木工デザイン科3年。
Born in Finland,in 1963
Third year student of the Metal&Wood Design Department of Design Faculty at the LAHTI Institute of Design.



TOTEM

自然の木の肌合いと調和する等間隔の垂直ラインのリズミカルな共存を表現したかった。
With my lighting I wanded to express a rythmic co-existence of parallel vertical lines in harmony with the livig texture of wood.

寸法:W=□300mm H=1750mm ● 素材:木 ● 電球:蛍光灯220V58W
Size:W=□300mm H=1750mm ● Material:Wood ● Lamp:FL Lamp: 220V58W

受賞者インタビュー●金賞受賞ヨルマ・タパニ・ノポネンさん

1.あなたの出品作品「Totem」の創作意図を述べて下さい。
初めは彫刻作品にもなる照明を作ろうと思っていました。Totemを出品する前に、私は2つの作品を持っていました。一つはテーブルランプですが、彫刻的ではなくしかもスケールが小さ過ぎたために明確な調和を得ることができませんでした。私は空間をコントロールできるような照明が作りたかったのです。それでもう一つのフロアランプに変えたのです。最初の作品は両側に縦のスリットしかなかったので、照明が床の上に立っているような印象がありました。垂直に上に向かっているような動きでした。何とかそれを止めようとして、前面のスリットを作ってみました。土台を少し上げて、少し前に傾けてみました。それによって三角形が強調され、縦の動きが止まりました。土台を作っているとき、同じ線に添って三角形の形と、同時に床としっかりつながっているのがわかるのがいいと考えました。そしてこの三角形の形の模索を続けました。何度も実験を繰り返してちょうど良いこの大きさになったのです。

2.このTotemにはどのくらいのスペースとどんな環境が適しているでしょうか。
これは広いスペース用の照明です。だから室内という概念に対して空間を仕切る役割を果たすことができます。

3.作品の材料になぜ木を選んだのですか。
温かみがあり、魅力的な材料だからです。それに取り組みやすい。Totemの場合、木を使うことで明確なしっかりした形を作り上げることができました。

4.このコンペをどのようにして知りましたか。
大学の告知板で案内を見ました。

5.このコンペに応募した理由は何ですか。
今までコンペに応募したことはありませんでした。でも、このTotemがとても気に入っていたので出品してみようと考えたのです。

6.照明についてのあなたの哲学をおしえてください。
空間に見合った照明を作ることです。一般的に、人々は照明技術が与える心地良い状況を理解していません。ハロゲン照明自体フィンランドの個人住宅ではほとんど知られていません。残念ながら、お客がデスクトップ用照明を選ぶときには、ただ店の人の勧めにしたがうだけなのです。そして、まだ照明が1つの対象物として考えられておらず、日常普通の明るささえあれば充分だと考えられています。徐々に照明も室内装飾の1部として利用される傾向になってきたので喜んでいますが。これはテーブルや椅子についても同様です。

7.フィンランドのデザイン全般についてどう思いますか。
フィンランドでは最近、デザインがますます大胆になってきています。織物と同様に家具や産業デザインでもすごいデザイナーがたくさんいます。けれどもフィンランド独自の作品を作る人が少なすぎると思います。外国のデザイナーから学んだり、影響を受けたりするのもよいことですが、こればかりになってはいけないと思います。

8.日本のデザインについてどう思いますか。
日本のデザインには明確な独自性があります。デザインに対する責任がよく表わされていると思います。以前から言われていることですが、これは、日本の人口の多さに関係していると思います。日本のデザイナーは芸術家であり、そのデザインは簡素で美しいと思っています。

9.学校では何を学んでいますか。
工業デザインを専攻しています。また、一般科目の他に、ビジュアルデザインや、写真撮影術や機械製図等を学んでいます。

10.将来はどのような仕事につく予定ですか。
卒業したら、できるだけ多方面のデザインを見ることができるような仕事を見つけたいと思っています。そして何年か働いた後でまた自分の研究を続けたいと思っています。

11.賞金はどのように使うつもりですか。
まだ決めていませんが、多分家族、妻と2才の息子とで、適当な休暇をとるでしょう。

12.この金賞受賞はあなたにとっての将来の活動にどのように影響すると思いますか。
デザインの研究課題をもたらしてくれるよう望みます。

INTERVIEW●Gold Award Jorma Tapani Noponen

1.Please specify the creation intention of your entry,the 'Totem'.
My starting point was to create a lighting that would be a sculpture as well.Prior to the Totem I had two earlier versions, which were table lamps but did not serve the sculptural function.They were too small and I could not achieve a clear rythm,which was what I was aiming at.I wanted a lighting that would control the space it was in,and therefore I made it into a floorlamp.The first version only had the vertical openings on the sides,but that gave the impression of the lamp rising above the floor,it had a straight upward movement.That had to be stopped somehow.Then I made the front openings,lifted the base up a little and tilted it slightly forwards.This emphasized the triangular figure and stopped the movement.When designing the base I thought along the same lines the triangular shape needed to be seen,and at the same a firm contact with the floor.I continued with the triangular shapes but it took a lot of experimenting before the dimensions were correct.

2.In your opinion,to wheat space and to what situation will fit in the "Totem"?
The Totem is a lighting for large spaces.It can e.g.serve as a space divider creating interior concepts.

3.Why did you choose the wood as the material of your work?
I chose wood because it is a warm and attractive matemial. It is easy to approach.In the Totem wood creates a contrast with the clear and hard shapes.

4.How did you know tce organization of ILDC?
I saw the invitation on the college notice board.

5.What made you enter the competition?
I had never before taken part in a competition.I liked the Totem very much myself and thought why not.

6.What is your philosophy of the lighting?

One should focus on the use of the right lighting for the space. In general people do not know the opportunities lighting technology offers.Halogen lightings are hardly known in Finnish private houses.Regrettably often it is up to the salesman to decide what kind of a light the customer choosed for his desk top for example.

Another thing is that a light is not considered an object,it is enough if it gives sufficient general lighting.Fortunately there are trends towards the use of lightings as part of interior design.It has a function in the same way as a table or chair has.

7.What do you think of Finnish design in general?

Only recently has design become more daring in Finland.We have many good designers in furniture,industrial design as well as textiles,but too often they do not work in the Finnish way.It is good to learn and draw impressions from foreign designers but we must not become like them.

8.How do you appreciate Japanese design in general?

Japanese design has a clear identity.It has undestood the ecological responsibility of design.This is of course due to Japan being densely populated country and thus these questions have arisen a long time ago.In my mind a Japanese designer is an estestic and so yeur design is simple and beautiful.

9.What subjects do you study at school?

I am majoring in product design and design manufacture and as minors I do e.g.visual design,photgraphy and technical drawning together with some general subjects.

10.What will be your future works?

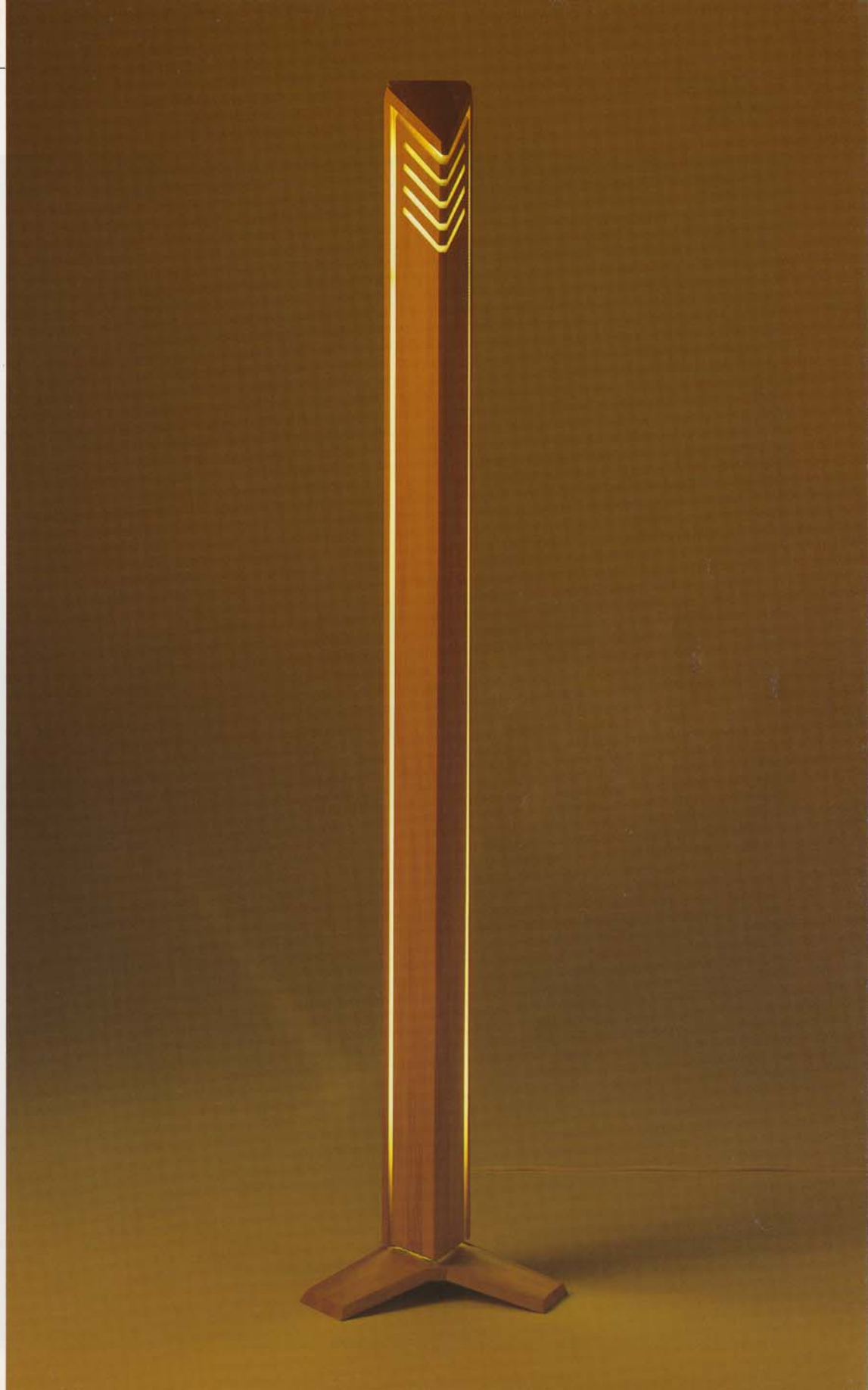
Once graduated I hope I can find a job thet gives me an opportunity to see an many sides of design as possible.I may also consider continuing my studies after a few years in the working life.

11.How do use the prize money?

I do not know yet.Perhaps my wife and 2-year-old son and I will have a proper holiday.

12.How does this Gold Award influence your future activities?

I hope it will bring about design assignments.



銀賞 Silver Award

名越佳子
Keiko Nagoshi

1970年富山県生まれ。
高岡短期大学産業工芸科2年。
Born in Toyama,Japan,in 1970.Second year student of Industrial Art Course,Takaoka Junior College.

建築物をイメージし、光と形が織りなす動きを追求した。生きているような都市の表情を表すため、四面を違った切り込みで構成した。連続的に切り込まれた木からもれる光は微妙に変化し、様々な表情を与えてくれる。日頃意識しない都市の偉大さを改めて感じてもらえるとうれしいです。

With an image of an architectural structure in mind,motion created by a combination of light and form was pursued.In order to depict the lively, animated expressions of the city,the four sides were composed of varying cuts.Light coming in through the successively cut wood changes subtly,giving us various different expressions.I would be most delighted if you could reaffirm the grandeur of the city which we usually are unaware of.

息づく都市 The City with Life and Vigor

光と形が織りなす動きを追求し、都市の息づきを表現した。

Pursuiting the movement of the light and a shape,I expressed the city's breathing.

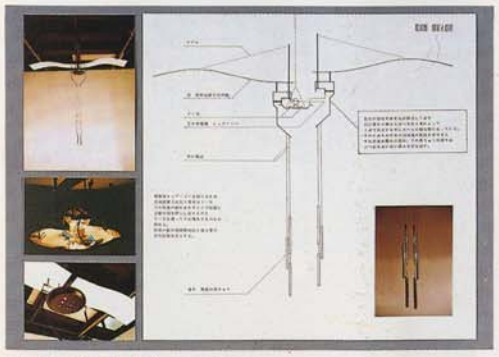
寸法：W=700　D=400　H=1000㎜●素材：木材(ヒバ)
●電球：ダイクロイックハロゲン球100W
Size：W=700　D=400　H=1000㎜●Material：wood●Lamp：IL100W

夏目 繁
Shigeru Natsume

1969年愛知県生まれ。
愛知県立芸術大学美術学部デザイン科2年。
Born in Aichi,Japan,in 1969.Second year student of Design Course,Department of Art,Aichi Prefectual University of Art.

自然の風によって、明かりに動きと音を与えようと考えました。風から得た動力をいかに音に変えるかという点で苦労しましたが、羽と重りとが釣り合ってできる2つのモビールを作る事によって、それができました。2枚の羽が風を受けて揺れると下の真鍮の重りが互いにぶつかり合い、高く澄んだ音を出します。

I thought of giving sound and motion to light by using natural winds.I had the most difficulty trying to think of how to change the power from the winds into sound,but that was made possible by making two mobiles balancing the wings and weights.When the two wings sway in the wind,the brass weights at the bottom clash into each other, causing a high clear sound.



風・音・光 Wind.Sound.Light

自然の風によって光に動きと音を与え、ひとつの空間全体を作り上げるような明りを作りたかった。

I intended to make the light offering the image of creating spaces which is achived by the light with movement and sound by a natural wind.

寸法：W=1900×250mm　H=2300mm●素材：鉄・アルミニウム・紙・ワイヤー・真鍮
●電球：サイドミラー球25W×2個
Size：W=1900×250mm　H=2300mm
●Material：Iron・Aluminum・Paper・Wire・Brass●Lamp：IL25W×2

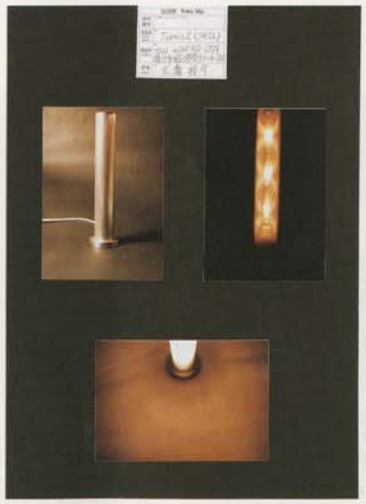
銅賞 Bronze Award

広瀬裕介
Yusuke Hirose

1964年神奈川県生まれ。
東芸美術研究所 デザイン科。
Born in Kanagawa,Japan,in 1964.
TOHGEI Private School of Fine Arts.

光が点いている時と、消えている時とで全く違った表情を見せることができる照明。自分の部屋で気持ちよく、くつろぐことができるような、部屋を美しく演出できる照明。そんな照明器具を誰にでも安く購入してもらって、多くの人に使ってほしい。そういう気持ちでこの作品を作ってみました。

A light which can depict completely different expressions depending on whether it is turned on or off.A light which would beautifully render the effects of your room so that you may relax comfortably and pleasantly.I wish to have as many people as possible to purchase such illuminating devices at reasonable prices and be able to use them freely.I made this work from such desires.



Twist ツイスト

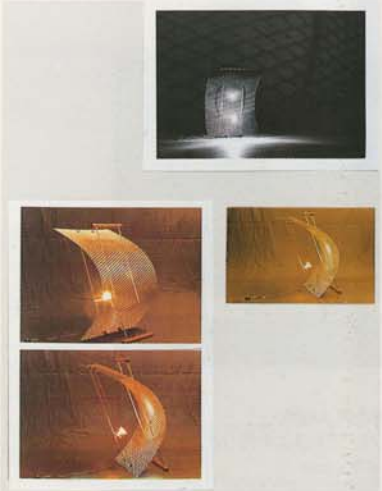
照明が点いている時と消えている時の表情の差がおもしろく出たと思います。

I believe the work that I made expresses an unique contrast of the light that is put on,and the light that is put off.

寸法：W＝φ60mm　H＝560mm●素材：アルミ●電球：リンクランプ100W
Size：W＝φ60mm　H＝560mm●Material：Aluminum●Lamp：IL100W

Juha Pekka Jokinen
ユハ・ペッカ・ヨキネン

1967年フィンランド生まれ。
LAHTIデザイン大学デザイン部金工木工デザイン科3年。
Born in Finland,in 1967.Third year student of Metal & Wood Design Department of Design Faculty at the LAHTI Institute of Design.



Gauzy Steel
影を生み出す光。
Light for the Shadow.

寸法：W=500×200mm　H=700mm●素材：鋼・木
●電球：ダイクロイックハロゲン球12V50W
Size：W=500×200mm　H=700mm●Material：Steel・Wood●Lamp：IL12V50W

銅賞 Bronze Award

岡﨑いづみ
Izumi Okazaki

1968年京都生まれ。
京都精華大学美術学部デザイン科3年。
1988年「私の駅前コンクール」2席。
Born in Kyoto,Japan,in 1968.
Third year student of the Design Course Department of the Art,Kyoto Seika University.
Awarded the second Prize of the Contest "The station square" in 1988.

僕は部屋の隅に不安気に光る小さな2つのあかりを見た。小さな2つのあかりは、わずかな磁力により引きあっている。息を止める。僕のまわりに〝しん〟とした空気が流れ、ときがとまった。

I happened to find two small lights shining anxiously in the corner of my room.Those two small lights were attracting each other with the slightest magnetic force they had.I stopped my breath. There was a silent atmosphere surrounding me, and the time stopped around me.

光の虫 Insent of Light
そのもののもつ、そのままの美しさ。
Real beauty of it's own.

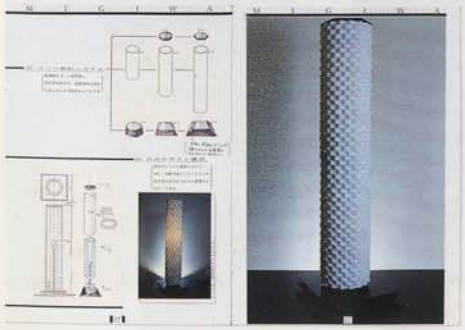
寸法：W=□150mm　H=1600mm●素材：ステンレス・木・ダイカスト・プラスティック
●電球：豆球(3.8V0.5A)×2
Size：W=□150mm　H=1600mm●Material：Stainless steel・Steel・Wood・die-cast・Plastic●Lamp：IL(3.8V0.5A)×2

鹿島 肇
Hajime Kashima

1965年神奈川県生まれ。
千葉大学工学部工業意匠科4年。
1989年準ハンズ大賞。
Born in Kanagawa,Japan,in 1965.
Senior student of the Industrial Design Course,Department of Engineering,Chiba University.
Awarded the Semi Hands Prize in 1989.

生産性やコストパフォーマンスは高いが、一律の表情しか持ち得なかった大量生産の製品に、一品生産品のような個々のデザイン・表情を持たせる。これら相矛盾する要素を解決する一つのアイデアとして、「多層に重ねたリングひとつひとつを自由な角度で回転し、トータルの模様を浮かび上がらせる。」という機能を提案した。

Though high in productivity and cost performance, I tried to give individual designs to mass-produced products which formerly could only possess uniform expressions,so that they could possess varying expressions as though they were single-item manufacturing.As one idea to resolve such elements that mutually contradict each other,I suggested the function of "freely revolving each ring overlapping each other in many layers in various angles,in order to have emerge a total design."



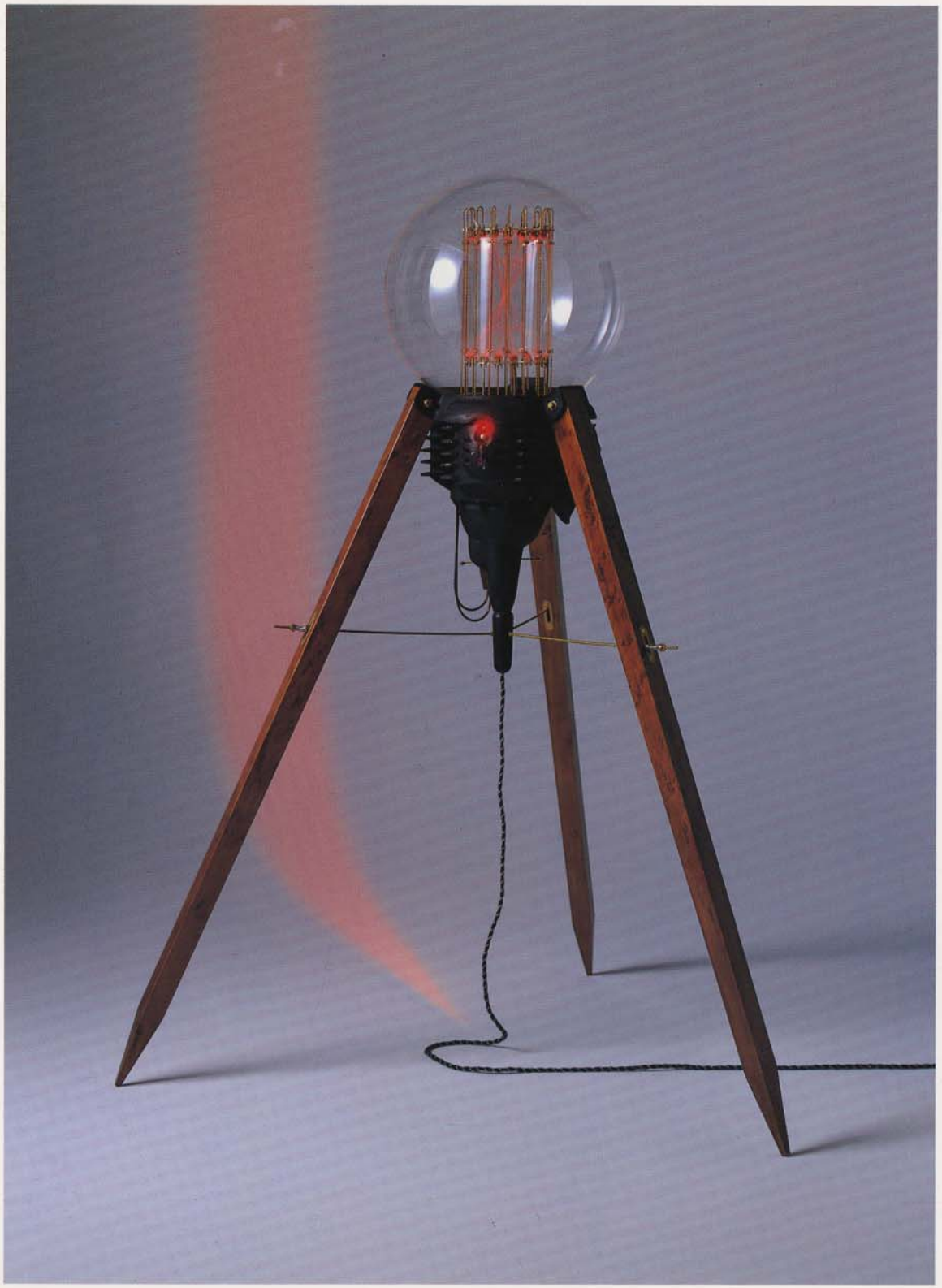
汀-MIGIWA

使う人にデザインをする楽しみを残しました。ウレタンリングの組み合わせは無限です。

I leave users the pleasure of designing by themselves.The users can make infinite combinations of urethane lings.

寸法：(台座 円形)W=φ240mm H=1045mm/(台座 四角)W=□270mm H=1045mm
●素材：ウレタン・アクリル
●電球：(台座 円形)ホワイトボール球40W/(台座 四角)昼光ランプ40W
Size：(Circle Base)W=φ240mm H=1045mm/(Square Base)W=□270mm H=1045mm
●Material：Urethane・Acrylicresin●Lamp：(Circle Bace)IL40W・(Square Base) IL40W

銅賞 Bronze Award



小林京和
Keiwa Kobayashi

1966年東京生まれ。
東京芸術大学美術学部工芸科4年。
Born in Tokyo,Japan,in 1966.
Senior student of the Industrial Art Course, Department of the Fine Art,Tokyo National University of Fine Arts and Music.

ヨーロッパなどの古い教会の巨大な内部空間は、機能・合理主義では理解不可能な小宇宙を形成している。そこではステンドグラスや燭台が、照明器具という役割以前に空間の収束点、あるいは宇宙の中の星的な存在意義を持っている。照明(あかり)とは1つの空間を小宇宙へと変化させる人工の星なのではないだろうか。

The huge inner space of old cathedrals in Europe create a miniature universe within themselves incomprehensible in terms of functionalism or rationalism.There,even before surving their purposes as lighting devices,the stained glass and candlestands seem to have some more profound existential meaning of serving as a converging point within the space or some star within that universe.Perhaps light is a kind of artificial star which changes a single space into a miniature universe.

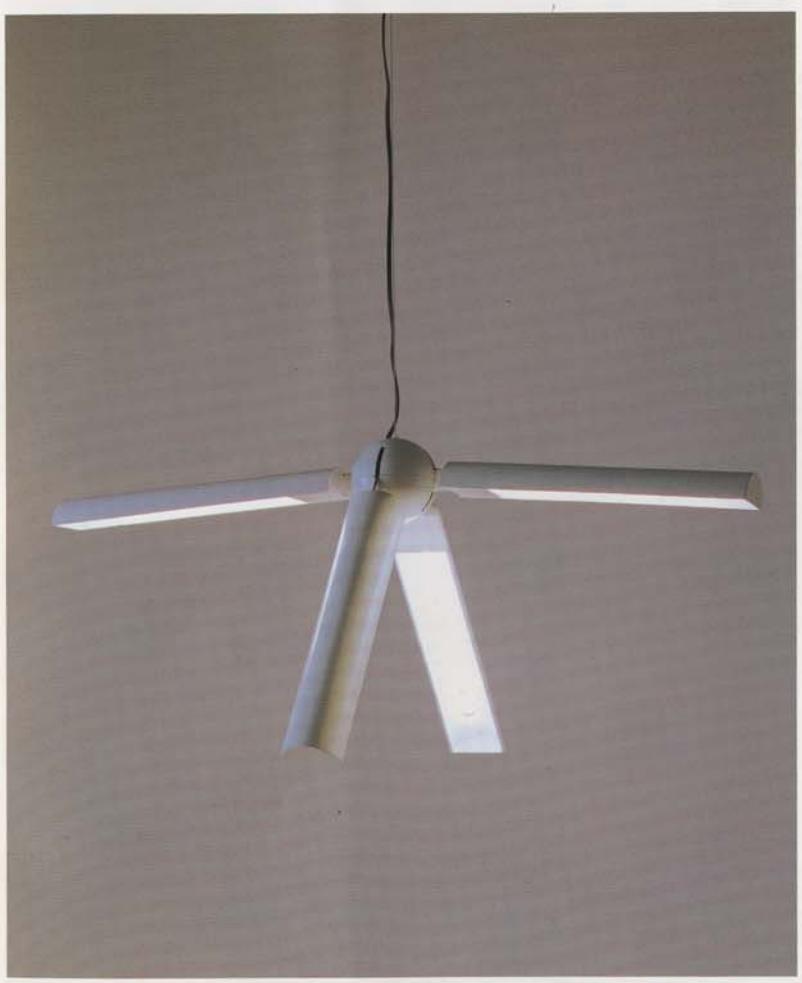
星の存在 The Existence of a Star
自分が楽しんで作るのが一番だと思っています。
この作品はそういう気持ちで作りました。
I believe the best thing in producting works is to have a pleasure for oneself.
This light was made in such a feeling.

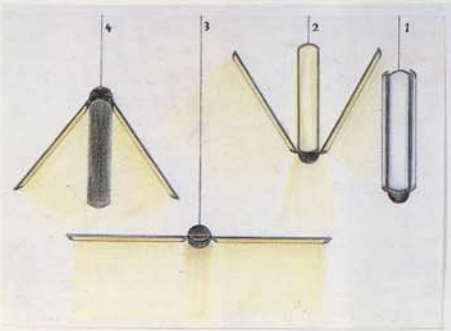
寸法：H=1850mm　W=□1000mm●素材：鉄・ガラス・木●電球：レーザー光
Size：H=1850mm　W=□1000mm●Material：Iron・Glass・Wood●Lamp：Laser Beam

特別賞 Special Award

宮竹伸一
Shinichi Miyatake

1972年大阪生まれ。
初芝高等学校デザイン科3年
Born in Osaka,Japan,in 1972.
Third year student of the Design Course,Osaka Hatsushiba Senior High School.





ホタル Fireflies

都会の空間を照らす現代のホタル。羽の動きで照らす範囲をかえてゆくことができる。

A firefly of the present day lighting on the urban space.You can change the lighting range by moving wing.

寸法：W=□1015mm　L=1500mm　H=125mm
●素材：ステンレス・鋼●電球：リンクランプ40W×4
Size：W=□1015mm　L=1500mm　H=125mm
●Material：Steinless steel・Steel●Lamp：IL40W×4

佳作 Honorable Mention

Boris Ilekovic
ボリス・イレコビッチ

1965年ユーゴスラビア生まれ。ザグレブ大学建築学部専門課程
1987年プリモ・プレミオ・インテルナツォナーレ・ディ・デザイン"EMU"（イタリア）佳作。
1988年，1989年コイズミ国際学生照明コンペ銅賞。
1988年第11回国際ビエンナーレ展"インテリア88"（ベルギー）出品。

Born 1965 in Yugoslavia.
Attended Specialzed Course at the Department of Architecture of the University of Zagreb.
Received Honorable Mention of the Primo Premio Internazionale di Design"EMU"Italy in 1987.
Received Bronze Award at the Koizumi ILDC in 1988,1989.
Participated in the 11th International Biennal "Interieur'88"in Kortrijk-Belgium in 1988.

RA

RA
寸法:W=φ400mm　H=1400mm●素材:アルミニウム・ステンレス
●電球:ハロゲン球220V150W
Sise:W=φ400mm　H=1400mm●Material:Aluminum・Stainlesssteel
●Lamp:IL220V150W

RA-RA

RA-RA
寸法:W=φ400mm　H=1400mm●素材:アルミニウム・ステンレス
●電球:ハロゲン球220V150W×4
Size:W=φ400mm　H=1400mm●Material:Aluminum・Stainlesssteel
●Lamp:IL220V150W×4

佳作 Honorable Mention

小林隆幸
Takayuki Kobayashi

1965年神奈川県生まれ。
東京芸術大学美術学部デザイン科4年。
1990卒業制作デザイン賞。
Born in Kanagawa,Japan,in 1965. Fourth year student of Design Course,Department of Art.Tokyo University of Fine Arts and Music.Awarded the Design Prize of Graduation Works.

Qualle くらげ
寸法:㊦W=□300mm H=1200mm㊥W=□300mm H=900mm ㊤W=□450mm H=450mm ● 素材:樹脂・真鍮 ● 電球:ハロゲン球6V5W×1 ハロゲン球12V5W×4 ハロゲン球12V20W×1 Size:(Large)W=□300mm H=1200mm (Medium)W=□300mm H=900mm (Small)W=□450mm H=450mm ● Material:Plastic Brass ● Lamp:IL6V5W×1 IL12V5W×4 IL12V20W×1

劉 立偉
Ryu Ritsui

1960年台北生まれ。
愛知県立芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻1年。
1988年ウッディアート大賞(入選)他。
Born in Taiwan,in 1960.
First year Postgraduate student of Design,Art Graduate Course, Aichi Prefectural University of Art.Awarded the woody Art Prize in 1988.others

仮面舞踏会 Masquerade
寸法:W=φ250mm H=1900mm ● 素材:鋼 ● 電球:ハロゲン球100W
Size:W=φ250mm H=1900mm ● Material:Steel ● Lamp:IL100W

Mikko Tapani Säässki
ミッコ・タパニ・サースキ

1958年フィンランド生まれ。
LAHTIデザイン大学デザイン部金工木工デザイン科3年。
Born in Finland,in 1958.
Third year in the Metal & Wood Department of Designe.Faculty at the LAHTI Institute of Design.

Pole-Light
寸法:W=φ300mm H=1800mm ● 素材:木・ステンレス ● 電球:ダイクロイックハロゲン球12V50W
Size:W=φ300mm H=1800mm
● Material:wood・stainless steel
● Lamp:IL12V50W

阿部しのぶ
Shinobu Abe

1966年岩手県生まれ。
日本大学芸術学部美術学科住空間デザイン科4年。
Born in Iwate,in 1966.
Forth year student of the Living Space Design Course,Department of Art,Nihon University.

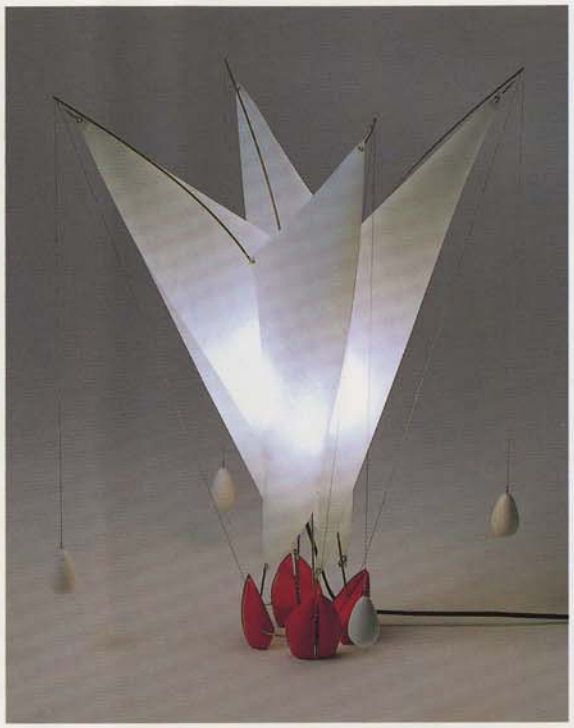
布灯
寸法:W=1800mm×900mm H=2500mm ● 素材:麻布・木 ● 電球:普通球60W×2
Size:W=1800mm×900mm H=2500mm ● Material:Hemp cloth・Wood ● Lamp:IL60W×2

佳作 Honorable Mention

中谷直樹
Naoki Nakatani

1968年愛知県生まれ。
筑波大学芸術専門学群建築デザイン科3年。

Born in Aichi,Japan,in 1968.
Junior student of the Construction Design Course,Specialized School in Art,Tsukuba University.



風に戯れて
Playing in the wind
寸法:W=□700mm H=800mm●素材:真鍮・和紙・木・ワイヤー●電球:ボール球40W
Size:W=□700mm H=800mm ● Material:Brass Japanese Paper・Wood Wire.●Lamp:IL40W

Lucia Damerino
ルチア・ダメリーノ
1966年イタリア生まれ。
Born in Italy,in 1966.

Donata Paruccini
ドナータ・パルッチーニ
1966年イタリア生まれ。
Born in Italy,in 1966.

Roberta Poggi
ロベルタ・ポッジ
1964年イタリア生まれ。
Born in Italy,in 1964.

I.S.I.A工業デザイン上級専門学校5年。1988年ボルテラで"アラバストロ2"を受賞。
1989年ミラノ・トリエンナーレでイタリアンズカップ出品 他。
Fifth year student of industrial Design Course, Institute Superior Industrial Art.
Received the Italian's Cup at Triennale Di Milano in 1989.

NOFFE
寸法:W=φ250mm H=250mm●素材:アラバスタ・ガラス●電球:蛍光灯20W
Size:W=φ250mm H=250mm●Material:Alabaster Glass
Lamp:FL Lamp

川 充雄
Mitsuo Kawa

1968年石川県生まれ。
金沢美術工芸大学美術工芸学部産業芸術学科工業デザイン専攻3年。1990年車いすデザインコンペ銀賞

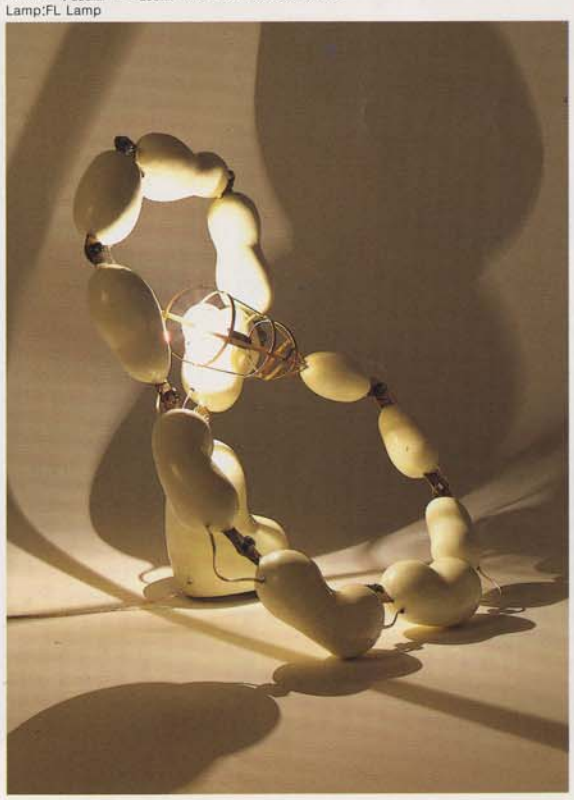
Born in Ishikawa,Japan,in 1968.
Third year student of the Industrial Design,the Industrial Art Course,Department of Industrial Art,Kanazawa Industrial Art University.
Received the Silver Award at the Wheelchair Design Competition in 1990.

Telescope
寸法:W=□250mm H=1560mm●素材:鋼●電球:ミニクリプトン球40W×2
Size:W=□250mm H=1560mm●Material:Steel●Lamp:IL40W×2

出野喜裕
Yoshihiro Ideno

1968年京都府生まれ。
京都芸術短期大学造形芸術学科1年。

Born in Kyoto,Japan,in 1968.
First year student of Formative Arts Course,Kyoto Arts Junior College.



世紀末を生き抜く生命
寸法:L=3,000mm D=250mm●素材:FRP・真鍮・ステンレス●電球:クリアボール球60W
Size:L=3,000mm D=250mm●Material:FRP・Brass・Stainless Steel
Lamp:IL60W

佳作 Honorable Mention.

Chris Canavan
クリス・キャナバン

1969年アイルランド生まれ。アルスター大学デザイン科2年。
1987年デザイン審議会・学校賞受賞。
1989年全国情報デザイン賞、勲一等受賞。

Born in Ireland in 1969.
Second year of Art and Design Department,University of Ulster. Recieved the School's Award at Design Council,1987.Recieved the Higher National Diploma in Communication Design.

寸法:W=□400 H=1900mm●素材:鋼・ガラス●電球:ハロゲン球12V50W
Size:W=□400 H=1900mm ● Material:Steel・Glass
●Lamp:IL12V50W

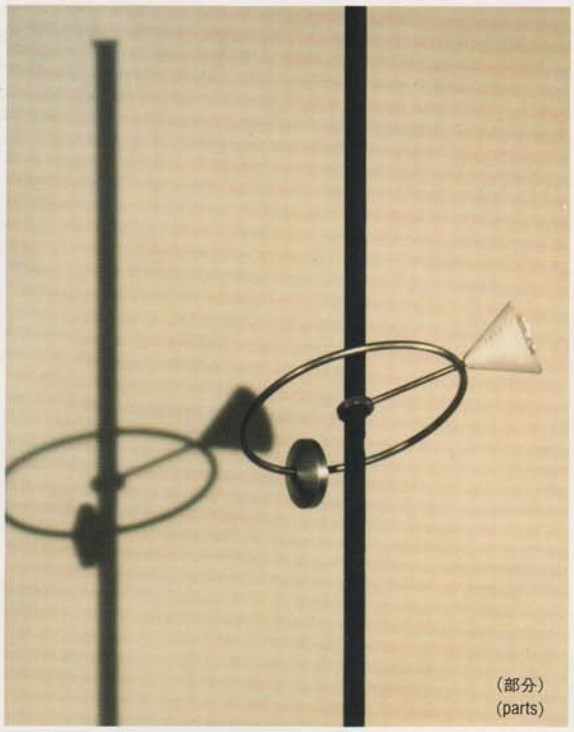
Stijn Heijdenrijk
スティン・ヘーデンレーク

1965年オランダ生まれ。
ロイヤルカレッジオブアート工業デザイン学部工業デザイン科1年。1988年HEMAデザインコンテスト出品。

Born in Netherlands,in 1965.
First year student of Industrial Design Department Course of Industrial Design Faculty.Royal College of Art.HEMA Design Contest,in 1988.Fonds Beeldend Kunst Vormgeving En Architectuur,in 1989.Degree Show Aive EINDHOVEN,in 1989.

turn

寸法:W=φ250mm H=1600mm ● 素材:鋼・ガラス●電球:ハロゲン球12V50W
Size:W=φ250mm H=1600mm ● Material:Steel・Glass
Lamp:IL12V50W



(部分)
(parts)

佳作 高校生の部 Honorable Mention(High School Section)

船戸正信
Masanobu Funato

1971年愛知県生まれ。
名古屋市立工芸高等学校デザイン科3年。

Born in Aichi,Japan,in 1971.
Third year student of the Design Course,Nagoya Municipal Industrial Art Senior High School.

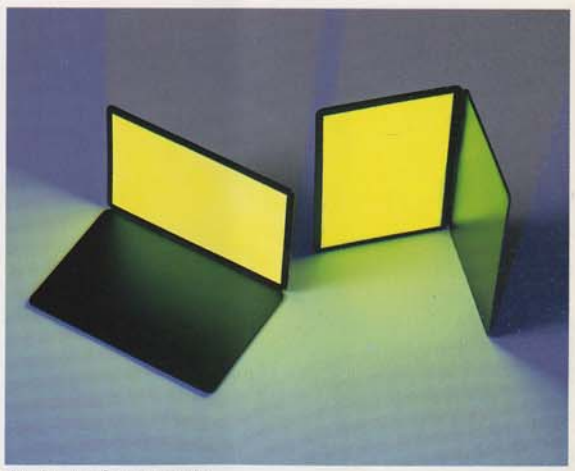
VENUS 宵の明星

寸法:W=□500mm D=200mm H=500mm●素材:真鍮●電球:ミニ球25W×2
Size:W=500mm D=200mm H=500mm
●Material:Brass
Lamp:IL25W×2

森田美鈴
Misuzu Morita

1973年長崎県生まれ。
長崎日本大学高等学校デザイン科2年。1988年こども県展デザインの部特選1989年高美展絵画の部入賞1989年長崎県展絵画の部入賞、長崎県展デザインの部入賞、高美展絵画の部入賞

Born in Nagasaki,Japan,in 1973.
Second year student of Design Course.Nihon University High School in Nagasaki.Awarded the Special Prize of Design Section at the Prefectural Exhibition for Children in 1988.Received a prize of the Picture Section at the Art Exhibition for High School in 1989.Received a prize of the Picture Section and the Design Section at the Prefectural Exhibition in Nagasaki in 1989.



カードランプCard Lamp

寸法:85×110mm●素材:プラスチック●電球:ELランプ
Size:85mm×110mm●Material:Prastic
Lamp:EL LAMP

選外佳作者 Unselected Entries

新井　恵美子	インテリア・センタースクール
石川　善郎	金沢美術工芸大学
石田　和人	東京芸術大学
臼田　裕子	専修学校 東京モード学園
小川　雄平	専修学校 東京モード学園
まゆみ　かおり	Persons School of Design
藤山　明弘	大阪美術専門学校
加藤　治紀	北海道綜合美術専門学校
川村　奨	北海道綜合美術専門学校
菊　恭子	大阪美術専門学校
込山　真弓	武蔵野美術大学
寒河　隆二	宝塚造形芸術大学
塩谷　憲史	長崎大学
芹田　和典	北海道綜合美術専門学校
千丈　康弘	大阪デザイナー専門学校
園　淳子	大阪美術専門学校
大吉　弘晃	東京理科大学大学院
高橋　芽久美	京都精華大学
戸部　奈々	大阪芸術大学
中島　宏	インターナショナル美術専門学校
登内　徹夫	工学院大学
橋田　正志	京都精華大学
林　喜太	東洋美術学校
深瀬　章子	昭和女子大学
藤井　順子	京都芸術短期大学
保戸田　英晴	東洋美術学校
松本　毅	専修学校 東京モード学園
丸尾　俊治	九州芸術工科大学
目　時　亮	芝浦工業大学大学院
盛　世匡	多摩美術大学
森下　育衛	名古屋芸術大学
森山　修	東京芸術大学
山本　啓	筑葉大学
吉岡　正人	京都工芸繊維大学
和田　修	専修学校東京モード学園
Ignasi Vich Enrich	E.A.A.O.A."LLOTJA"Barcelona(スペイン)
Singgih Susiio Kartono	Bandung Institute of Technology(インドネシア)
Olle Munck	LAHTI Instioute of Design(フィンランド)
Tanno Tamminen	LAHTI Institute of Denign(フィンランド)
Rami Toivonen	LAHTI Institute of Design(フィンランド)
Francis Dougias Wartelle	Leeds Polytechnic(イギリス)
Dina Vulln	University of ZAGREB(ユーゴスラビア)

第3回結果と概要 Application Procedures

主旨
照明文化の向上を意図し、若いみなさまに
あかりの創造の場を提供するもの。
自由な発想と表現で、あかりの可能性を広げる作品を募集。

参加申し込み者数
1,335名(国内1286、海外49)

応募作品数
1,072点

応募資格
1989年11月10日現在、在籍中の学生・生徒。

募集作品
作品は「あかりの造形」であれば、どんなものでも自由。
ただし未発表でオリジナルなものに限る。

審査基準
①造形として洗練されているか、面白いか
②そこに何らかの提案が盛り込まれているか
③しっかりとした計画のもとに考えられたか
④ユニークで新しい発想が感じられる作品か
⑤作品の意図を上手に伝えられているかどうか

賞
金賞(1点) ……賞状・賞金100万円
銀賞(2点) ……賞状・賞金 30万円
銅賞(5点) ……賞状・賞金 10万円
特別賞(1点) ……賞状・賞品
佳作(12点) ……賞状・賞品
佳作(高校生の部)(2点) ……賞状・賞品

審査委員長
栄久庵憲司(インダストリアル・デザイナー)

審査委員
粟津　潔(グラフィック・デザイナー)
菊竹清訓(建築家)
ジョナサン・デ・パス(インテリア・デザイナー)
小泉産業㈱社内審査員3名　順不同

主催
小泉産業株式会社

後援
㈶日本産業デザイン振興会
㈳日本インダストリアルデザイナー協会

Objective
To provide an opportumity for young people to improve the field of lighting.Applicants are encouraged to use their imaginations freely and to submit as many entries as they wish.

Number of People Responding
1335(Japan 1286.Other countries49)

Number of Applications Received
1072

Application Qualifications
Applicants must be officially registered students of an institute of learning as of November 10,1989.

Description of Entries
The type of entry is compietely unrestricted,as long as it realects the general theme of"illumination design."Entries must,however,be origilal works which have not been pmeviously exhibited or otherwise released.

Judgement Criteria
①Degree of refinement and interest as a model
②Existence of some new preposai
③Evidence of comrete plans leading to the work
④Reflection of uniquenss and innovative concepts
⑤Skill in expressing the intention of the work

Awards
Koizumi Gran Prix
Gold Award(1 entry)…Certificate of award and ¥1,000,000
Silver Award(2 entries)…Certificate of award and ¥300,000
Bronze Award(5 entries)…Cortificate of award and ¥100,000
Special Award(1 entry)…Certificate of award and prize
Honorable Mention(14 entries)…Certificate of award and prize
Honorable Mention(High School Section 2entries)…
Certificate of award and prize

Head Juror
Kenji Ekuan(industrial Designer)

Jury Panel (In random order)
Kiyoshi Awazu(Graphic Designer)
Kiyonori Kikutake(Architect)
Jonathan De Pas(Interior designer)
Three representatives from Koizumi Sangyo Corp.

Sponsor
Koizumi Sangyo Corp.

Affiliated Assoclations
Japan Industrial Desing Promotion Organization
Japan Industrial Designers Association

参加学校名Participant's Schools

大学院

愛知県立芸術大学大学院
九州大学大学院
芝浦工業大学大学院
千葉大学大学院
東京芸術大学大学院
東京電機大学大学院
東京理科大学大学院
東北大学大学院
武蔵野美術大学大学院

大学

愛知教育大学
愛知県立芸術大学
愛知工業大学
青山学院大学
足利工業大学
いわき明星大学
岩手大学
大阪芸術大学
大阪工業大学
大阪大学
鹿児島大学
金沢工業大学
金沢美術工芸大学
関東学院大学
岐阜女子大学
九州芸術工科大学
九州産業大学
九州大学
京都教育大学
京都工芸繊維大学
京都市立芸術大学
京都精華大学
京都大学
京都府立大学
共立女子大学
近畿大学
熊本大学
工学院大学
神戸芸術工科大学
滋賀大学
静岡大学
芝浦工業大学
昭和女子大学
職業訓練大学校
大同工業大学
宝塚造形芸術大学
多摩美術大学
千葉大学
筑波大学
東海大学
東京学芸大学
東京芸術大学
東京工業大学
東京造形大学
東京大学
東京電機大学
東京都立大学
東京理科大学
道都大学
東北工業大学
東北生活文化大学
東北大学
長崎大学
名古屋芸術大学
名古屋工業大学
日本女子大学
日本大学
広島大学
福岡大学
法政大学
北海道工業大学
北海道東海大学
北海道大学
名城大学
武蔵野美術大学
明治大学
横浜国立大学
立正大学
早稲田大学

短期大学

大垣女子短期大学
大阪工業短期大学
九州造形短期大学
共栄学園短期大学
京都芸術短期大学
堺女子短期大学
嵯峨美術短期大学
樟蔭東女子短期大学
成安女子短期大学
高岡短期大学
東京職業訓練短期大学
トキワ松女子短期大学
名古屋造形芸術短期大学
奈良佐保女学院短期大学
奈良芸術短期大学
武蔵野美術短期大学
浪速短期大学

高等学校

安西高校
佐倉西高等学校
松蔭高校
常葉学園菊川高校
筑陽学園高等学校
長崎日大高校
名古屋市立工芸高等学校
新座綜合技術高等学校
初芝高校

専門学校

青山製図専門学校
アーバンデザインカレッジ
アベノYMCA学院
岩崎ファッション工科専門学校
インターナショナル美術専門学校
インテリアセンタースクール
大阪市立デザイン研究所
大阪デザイナー専門学校
大阪美術専門学校
御茶の水美術専門学校
京都科学技術専門学校
桑沢デザイン研究所
攻玉社専門学校
神戸デザイナー学院
修成建設専門学校
セツ・モード・セミナー
高浜高等技術専門学校
東海工業専門学校
東京工科専門学校
東京デザイナー学院
東京デザイン専門学校
東京美術研究所
東京モード学園
東芸美術研究所
東京レタリング実技研究所
東洋美術学校
東洋ファッション工科専門学校
名古屋総合デザイン専門学校
名古屋モード学園
新潟デザイン専門学校
日本ビジネススクール専門学校
日本デザイナー学院(東京・広島・福岡)
日本理工情報専門学校
日本電子専門学校
文化学院
北海道造形デザイン専門学校
北海道綜合美術専門学校
町田デザイン専門学校
モビリアインテリアカレッジ
RAYデザイン研究所

海外

LAHTI INSTITUTE OF DESIGN(フィンランド)
UNIVERSITY OF INDUSTRIAL ARTS HELSINKI(フィンランド)
Leeds Polytechnic(イギリス)
MANCHESTER POLYTECH ALL SAINTS MI(イギリス)
University of Ulster(イギリス)
Royal College of Art Industrial Design(イギリス)
BANDUNG INSTITUTE OF TECHNOLOGY(インドネシア)
ISIA(イタリア)
FACULTY OF ARCHITECTURE(ユーゴスラビア)
ARCHITECTURAL FACULTY.(ユーゴスラビア)
UNIVERSITY OF ZAGREB(ユースラビア)
ECOLE DES ARTS DECORATIFS(スイス)
ECOLE CANTONALE ART DE LAUSANNE(スイス)
国民大学校(韓国)
PARSONS SCHOOL OF DESIGN(U.S.A)
University of North Carolina at Greensboro(U.S.A.)
Western Wash.University(U.S.A.)
E.A.A.O.A.LLOTJA BALCELONA(スペイン)
Hoger Architektuurinst V/H Rijk(H.A.I.R.)(ベルギー)
SKOLEN FOR BRUGSKUNST(デンマーク)

コイズミ国際学生照明デザインコンペ事務局
〒541 大阪市中央区備後町3-2-8 長谷ビル3F 小泉産業株式会社事業統括本部内
TEL 06(266)7804
Office of Koizumi International Lighting Design Competition for Students
Headquarters Koizumi Sangyo Corp.
Hase Building 3F.3-2-8 Bingo-machi Chuo-ku.Osaka Japan 541